

広報

おやすみ

2018

10

No.165



私たちにできること

がんばる大洲っ子

サッカー部の3年間を振り返って

肱東中学校 3年
久保野 真之介^{しんのすけ} さん



僕は、肱東中学校サッカー部に所属し、3年間活動してきました。サッカーは中学校に入学してから始めたので、仲間に遅れをとってしまっているのではないかと不安がありました。しかし、先輩たちのアドバイスなど、たくさんさんの支えがあり、自分なりに続けていくことができました。

昨年の8月には、新チームの主将に選ばれました。僕は、チームメイトよりもサッカー経験が浅いため、技術に関して助言することはできません。そのため精一杯声を出して、チームを盛り上げることに徹しました。6月に行われた市郡中学総体では、優勝することができ、とてもうれしかったです。最後の大会も終え、部活動は引退しましたが、高校に入ってもサッカーを続けていきたいです。

将来の夢は決まっています。が、人の役に立てるような仕事に就きたいです。まずは高校受験に向けて、勉強に励みたいと思います。

10月の納税など

納期限は10月31日(水)です。

税 別	10月	11月	12月	1月
市 県 民 税	3 期		4 期	
固 定 資 産 税		4 期		5 期
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	4 期	5 期	6 期	7 期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

人の動き(先月比)

人口 43,603人 (- 73)
男 20,808人 (- 39)
女 22,795人 (- 34)
世帯数 19,973世帯(- 27)

交通事故(昨年同期)

件数 57件(71 件)
死者 0人(2 人)
負傷者 78人(90 人)

(2018年8月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	(特集1)「世界を知り 自分を知る」
10 ページ～	(特集2)平成30年7月豪雨関連
13 ページ～	シリーズ
15 ページ	おおずニュース
16 ページ～	おしらせピックアップ
22 ページ～	情報ひろば
24 ページ	集まれO級若モン
25 ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28 ページ	がんばるひと (大洲肱彩会)

今月の表紙



平成30年7月豪雨で浸水した木材などを利用し、テーブルなどを作成するチャリティ事業が、8月26日(日)に開催されました。市内外から集まった参加者は、真剣な表情で作業をしていました。

詳細は、10・11ページに掲載しています。

【お詫び】

広報おおず8月号2ページで紹介した「がんばる大洲っ子」の文中で、里下獅子保存会と掲載していましたが、里獅子保存会の誤りでした。お詫びのうえ、訂正させていただきます。

(特集1) 世界を知り 自分を知る

～大洲市中学生海外派遣事業～



写真左から 山田さん 正月さん 山本敦さん 北野さん 曾根さん 久保さん 山本七さん
 富永さん 吉田さん 豊崎さん 山崎さん 金橋さん 谷本さん

平成30年度 大洲市中学生海外派遣日程

7月30日(月)	出発式、松山空港から関西国際空港を経由しケアンズへ出発
7月31日(火)	ケアンズ着、ケアンズ市内観光、現地学校でのオリエンテーション、ホームステイ開始
8月1日(水) ↓ 8月10日(金)	▽英語学習 (午前×8日間) ▽交流授業 (午後×6日間) ▽文化交流 ▽生徒間交流 ▽ホストファミリーとの交流 ▽さよならパーティ
8月11日(土)	ケアンズウォークラリー 市内自主研修
8月12日(日)	ケアンズから関西国際空港へ 到着後、空港内のホテルに宿泊
8月13日(月)	大洲までバスにて移動 帰国報告会

大洲市では、(公財) 榊山教育振興会の協力を得て、「大洲市中学生海外派遣事業」を毎年実施しています。

この事業は、これからの大洲市を担う中学生を海外に派遣し、異国の文化に触れることで、歴史、経済、生活習慣および国民性の違いを肌で感じ、国際的な感覚と視野を養い、国際化時代にふさわしい人材を育成することを目的としています。今年度は9校13人の中学生が、7月29日(火)から8月12日(日)までの13日間、オーストラリアのケアンズに滞在しました。

現地では、語学学校に通って英語の授業を受けたり、ホストファミリーの家庭でホームステイをしたりするなど、自然や多くの人と触れ合い、さまざまな交流を行いました。

今月号では、参加したみなさんの感想文を紹介します。



今回の海外派遣事業で、たくさんのことを学ぶことができました。最初は、きちんと話せるかなと不安で、僕の英語が通じるか心配でした。でも、意味はしっかりと相手に伝わったので良かったです。英単語を忘れてしまったこともありましたが、ジェスチャーなどをして伝えることができ、ジェスチャーの大切さを痛感しました。大変なことがたくさんありましたが、オーストラリアでの毎日はとても楽しかったです。



大洲南中学校
山田 圭吾さん

一番楽しかったことは、ホストファミリーと遊んだことです。8歳のホストブラザーや、ほかのホームステイしていた人たちと、トランプや鬼ごっこをしました。トランプでは「ドーナツ」などをしました。相手に英語でゲームの遊び方を説明するのが大変でした。僕が日ごろ遊んでいる「ドーナツ」や「大富豪」などは知られていませんでした。

今回の海外研修で大きく成長できたと思います。毎日新しいことがあり、現地の人と英語で話すなど慣れないことばかりだったけれど、とても新鮮で、一生懸命頑張ることができました。将来に生かすことができるように頑張りたいです。

私は、今回の海外派遣で、日本ではできないたくさんのことを経験することができ、さまざまなことを学ぶことができました。そして、たくさんのいい思い出もつくることができました。



大洲南中学校
谷本 ひなのさん

最初は不安と緊張でうまく英語で話すことができませんでした。ホストファミリーもバディの子も優しく接してくれて、徐々に英語にも慣れ、楽しく生活することができました。

オーストラリアでの生活は、毎日が新しい発見ばかりで、とても充実した2週間を過ごすことができました。日本との文化の違い、日本には気づけなかった日本のよりよいところ、そして、人の温かさ、たくさんのことを感じることができました。私は、豪雨もあり大変な中、海外派遣に行かせてくださったみなさんや、ホストファミリー、バディすべての人への感謝の気持ちを忘れず、今回の海外派遣で学んだたくさんのことをこれからの生活に役立てていこうと思います。



初めに、水害に遭われたみなさんの一日も早い復興をお祈りいたします。

私がこの海外派遣で学んだことは、自分の意志をはっきり伝えることの大切さです。最初は、ホームステイ先でファミリーの会話の早さについていけず、何を問われているのか分からないまま、返事をしてしまい、ファミリーを困らせることがありました。この経験から、分からない単語が会話の中で出る度に、辞書を使い、理解を深めていきました。意味を理解すると、イエスカノーの判断ができ、ファミリーとの会話が弾んだので、とてもうれしく感じました。また、現地の学校に通い、異文化に触れながら授業を受けたり、子どもたちと遊んだりできてとても楽しかったです。

水害で大変な中、引率していただいた先生、大洲市職員の方々に感謝します。ありがとうございました。



大洲北中学校
曾根 梨奈さん

日本語が通じない、文化の違う場所で過ごしたのは初めてのことでした。ホストファミリーとの生活や現地の学校では、言葉が通じず、自分の気持ちも伝えられず、大変でした。でもホストファミリーもバディも優しく、何とか理解しようとしてくれて、少しずつ慣れて英語が通じたときは、とてもうれしかったです。

また、英会話以外にも、アボリジニダンスや日本では見ることができない南十字星を見たり、現地では人気のお菓子作りをしたり、たくさんの思い出ができました。中でも、一番の思い出は昼休みにみんなで遊び走り回ったことです。とても広いグラウンドで息が切れるまで走り回りました。みんなが笑顔で走る姿がとても印象に残っています。

僕は一緒に行ったメンバーや、ホストファミリー、バディに恵まれたと思います。たった2週間でしたがみんなのおかげでたくさんのことを学びました。本当に参加できてよかったなと思います。



大洲北中学校
まさつき 達也さん

現地の学校では、オーストラリアの歴史や個性的な動物、先住民族アボリジニなどについて学びました。

また、休み時間には、バディや子どもたちと一緒にグラウンドでバスケットや鬼ごっこをして、思い切り楽しみました。

ホストファミリーはとても優しく、僕が日本や大洲のことを話すと、しっかり話を聞いてくれました。会話をしていて、僕が分からない英語は、簡単な表現を使って話してくれました。ホストファミリーとの交流で一番心に残っていることは、南十字星を見つけられなかったときに、一緒に見ていたホストマザーが“ザット イズ サウザン That is Southern Cross”クロス”と言って、方角を教えてくれたことです。オーストラリアで一番見たかった星だったので、南十字星を見つけられたときはとてもうれしかったです。

日本では経験できない、現地の人との交流や文化に触れることができ、本当に感謝しています。これからも自分の英語に自信が持てるよう努力を続けていきます。そしてまた、ホストファミリーやバディに会いに行きたいです。



大洲北中学校
吉田 悠悟さん





平野中学校

北野 瑞季さん

私は、この大洲市中学生海外派遣事業を通して、たくさんのことを学ぶことができました。ホームステイでは、初めの頃は、少しホームシックになりかけていましたが、時間が経つにつれ、生活にも慣れていき、楽しいことが増えていきました。現地の学校では、午前中は英語の授業を受け、午後はいろいろな学年のクラスに行き、一緒に工作やゲームを楽しみました。現地の生徒たちは、みんなとても元気で、運動神経もよく、すれ違う度に、「こんにちは」とあいさつをしてくれ、すごいと思いました。

また、アボリジニダンスやオーストラリアンバレエなど、日本では見られないものを見ることができてうれしかったです。

全体を通して、オーストラリアのさまざまな文化を学ぶとともに、改めて日本の良さを感ずることができました。また、私が得意としていた英語も海外に行くとき聞き取ったり、答えたりするのが難しく、苦労しましたが、良い経験ができました。他校の生徒とも仲を深める良い機会となり、貴重な体験をすることができました。

私がこの2週間で学んだことは、たくさんあります。オーストラリアでは、日本では経験することのできないことをたくさん経験することができました。

特に、現地の学校に通ったことが一番印象に残っています。オーストラリアの学校は敷地が広く、自然の中にあり、とても過ごしやすかったです。また、学校に通っている生徒も多種多様な人たちで、たくさんの文化を肌で感ずることができました。また、学校ではバディと一緒に昼食を食べたり、絵を描いたり、外で遊んだりしました。どれもとても楽しかったです。さらに、学校で友達を作ることができました。

今回の海外派遣で、オーストラリアの文化や気候、雰囲気などたくさんのことに触れて、自分の視野が広がりました。この経験を将来に繋げていきたいです。このような研修の場を与えていただき、ありがとうございました。



肱東中学校

豊崎 裕佳里さん

ケアンズで過ごした日々は、これまでの生活では得られない貴重な体験の連続でした。西日本豪雨による被災で大変な中、この派遣事業に参加させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

15日間を振り返って印象に残っていることは、ホームステイ先や現地の学校での生活です。ランチタイムでのバディとのふれあいや英語の授業を通して、オーストラリアの文化や自然について学ぶことができました。目に映る一つ一つが新鮮で、何とか理解したいと夢中で取り組みました。言葉が違う環境での生活は大変でしたが、何より伝えたいという気持ちが大事だと学びました。この気持ちがあれば、アイコンタクトやジェスチャーも自然と出て、片言の英語でも思いを伝えることができました。

私は、これからの生活でもっと英語力を磨き、将来は世界とつながる役割を担うという夢を膨らませています。



新谷中学校

山崎 紗和さん



今回の海外派遣では、とても多くのことを学ぶことができました。最初は、上手く会話できるかどうか不安でしたが、ホストファミリーのみなさんや学校の先生、バディの人が、私に言葉が伝わるように、ゆっくり話したり、分かりやすい単語に言い換えたり、工夫して英語を使ってくださいました。しかし、それでも分からない単語があると辞書を頼り、スムーズに会話が進められず、もどかしい気持ちになることも多くありました。しかし、それらの体験が、さらに自分の英語の力を高め、もっと自由に会話をしたいと思うきっかけになりました。



長浜中学校
久保万莉奈さん

また、ホストファミリーは、毎週火曜日に祖父母の家に集まって、夕食を一緒にとる習慣がありました。私もその食事会に参加して「週に1回、親戚が集まって食事をするのって良いな」と思いました。

今回の海外派遣で、異文化への理解を深めるとともに、さまざまな人たちと交流できたことがとても良い経験になりました。オーストラリアで学んだことをこれからの生活に生かしていきます。

今回、海外派遣が決定して、とても楽しみでした。しかし、出発の時期が近づくにつれて、初めての海外旅行であること、日本語が使えない状況になることなどを想像すると、次第に不安になってきました。



長浜中学校
金橋 紗莉愛さん

しかし、ステイ先のお母さんは、日本の優しい母親のような雰囲気だったので、とても安心しました。特に夜ご飯では、私の好きな料理や日本食を作ってください、日本が恋しくなることもありませんでした。また、ステイ先には、小学6年生の子どもが1人いて、学校の宿題を教えてもらったり、一緒に遊んだりしました。時には、日本語で話もしてくれました。お父さんは、たくさん話しかけてくれる面白い人でした。ステイ先のみなさんには、よくしていただいたので、お別れの日はとても悲しい気持ちになりました。

この海外派遣事業を通して、貴重な体験をたくさんすることができました。ホームステイ先の家族と過ごしたことや、一緒に参加した中学生と友達になったことも良い思い出になりました。これらのことを、多くの人に伝えていきたいです。



「言葉が通じるか」などの不安も多くありましたが、現地のみなさんに温かく迎えていただき、本当に楽しく過ごすことができました。充実した2週間だったと思います。



河辺中学校
山本 七海さん

特に印象に残ったのは、現地の学校の生徒と運動や工作などで交流したことです。日本のこと、自分のこと、自分が通う学校のこと、たくさんのお話をすることができました。私は、オーストラリアに出発する前、「現地の人と積極的にコミュニケーションをとる」という目標を立てました。この目標に対し、自分なりに努力できました。そして、言葉や国を越えてたくさんの人たちと仲良くなったことは何よりの思い出です。

今回の海外派遣で、オーストラリアの文化や考え方に触れ、自分の視野や考えを広げることができました。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝するとともに、オーストラリアで学んだ多くのことをこれからの生活に生かし、実践していきたいと思います。

初めての経験で、緊張や不安もありましたが、ホストファミリーにとっても温かく接していただき、安心して2週間を過ごすことができました。



肱川中学校
富永 祥貴さん

現地の学校では、小学生と一緒に勉強をしたり体を動かしたりしました。日本に比べると、子どもたちが自由な雰囲気の中で元気いっぱいに学んでいる姿が印象的でした。また、オーストラリアは自然が豊かで、たくさんの動物と触れ合えたことが楽しかったです。

自分の伝えたいことを英語で上手く伝えられなかったり、話していることがすぐに理解できなかったり苦労することがありました。しかし、その環境にいたからこそ、英語を話したり聞いたりする力が鍛えられました。また、帰国してから食べた味噌汁がとてもおいしく感じられ、日本食の素晴らしさも実感しました。

水害の影響により、大洲市全体で復興作業をしている中で行かせていただいたことに感謝するとともに、オーストラリアの自然の素晴らしさや、海外の人たちと交流する楽しさをみんなに伝えたいと思います。



僕は、今年の夏休みに海外派遣でオーストラリアへ行きました。そこで現地の人とふれ合い、交流して多くのことを学びました。オーストラリアの文化、動植物、民族についてなどです。そして何より、英語力だけでそれらを学ぶことができました。



愛光中学校
山本 教晶さん

今まで自分の学力は、点数や順位などで確認していましたが、それを実践で体験でき、自分の身になった学習を再確認しました。同じ派遣メンバーとの会話を除けば周りは英語ばかりです。端末を持っていない状況で紙の辞書を引つつ、英語でコミュニケーションをとる必要があります。このホームステイを、僕はとても楽しめたと、自身の再確認という意味でも有意義なものにすることができたと思います。

今回の経験をこれからの将来、ただの旅行という記憶にとどめず、自信の源や海外経験による視野の広がりなど自身の糧としていくことができるよう、精一杯生かしていこうと思います。

今回の研修には、中学生13人が参加し、私は団長として同行しました。今年の日本は、連日記録的な暑さが続きましたが、ケアンズは最高気温が27℃、最低気温が18℃ほどで、生徒たちは快適な環境の中で研修を行うことができました。

この研修は15日間にも及ぶので、生徒が体調を崩さないか心配でしたが、生徒たちは元気に研修を終えることができました。特に、ウォーリー・ステイト・スクールの先生たちには、生徒たちを気持ち良く受け入れていただきました。バディたちも、素敵な笑顔で積極的に生徒たちに関わってくれました。おかげで生徒たちは、研修プログラムに真剣に取り組むことができ、貴重な経験を積むことができたと思います。私にとっても、たくさんのことを学ぶ良い機会となりました。

中でも、つくづく痛感させられたことは、英語は聞き取りが難しいということです。書いてあることは、これまでの知識からなんとなく分かります。話すのも知っている単語を並べればなんとか相手に通じます。しかし、聞き取りは、普段から英語に接していないと難しいということがよく分かりました。生徒たちも同じ思いをしたかもしれません。しかし、これも勉強の1つです。

生徒たちは、この研修を通して感じたことや学んだことを今後の学校生活に生かしてくれるものと思います。その機会を与えていただいた桝山教育振興会、大洲市、大洲市教育委員会のみなさんには心から感謝申し上げます。また、保護者のみなさんにおかれましても、本事業へのご理解とご協力をありがとうございました。



団長 大洲南中学校
校長 兵頭 隆治

平日、私たちはウォーリー・ステイト・スクールという小学校にお世話になりました。学校では、午前中は語学研修で、女性のクリス先生による英語の授業を受けました。当然、すべて英語で授業が進められます。生徒たちも最初は緊張した様子でしたが、英語の歌と一緒に歌ったり、ゲーム形式での対話活動を行ったりする中で緊張もほぐれ、楽しく活動することができました。翌週には、積極的に英語で発言する場面も見られ、とても驚かされました。クリス先生は、とてもエネルギッシュで、英語を教えることに誇りをもっていました。クリス先生のおかげで、充実した語学研修を受けることができました。

それぞれ生徒には小学生のバディがつきました。ウォーリースクールの小学生は、とてもフレンドリーでどんどん話しかけます。理解できない英語もたくさんあったはずですが、ジェスチャーや絵などを使ってコミュニケーションをとり、すぐに仲良くなりました。そんな様子を見てみると、コミュニケーションにおいてまず大切なことは、相手のことを知ろうとする気持ち、相手に伝えようとする気持ちだと感じました。

私自身は3年前にも本事業でケアンズに行かせていただいたので、今回が2度目の引率でした。うれしかったことは、3年前にお会いしたみなさんが、私のことを覚えていてくれたことです。そして、3年前のホームステイの際にお世話になったホストマザーにも再会できました。海外派遣事業の引率をさせていただき、改めて人と人のつながりの大切さを学ぶことができました。お世話になったみなさんの笑顔をいつまでも心の中にとどめておきたいです。



引率 肱東中学校
教諭 下岡 史明



今回、海外派遣に参加したみなさんは、少なからず不安を抱えて出発したと思います。それでも、13日間の海外生活を終え、大洲へと帰ってきた姿は、とてもたくましく見えました。みなさんの感想文を読むと、とても有意義な海外派遣であったことが分かります。

今回の体験を通して、派遣生のみなさんが世界に羽ばたく人材となることを願っています。



(特集2)

平成30年7月豪雨関連



古舘さんの指導を受ける



この日は、テレビの取材を受け、大きく取り上げられました。

復興の一助となるように

平成30年7月豪雨によるチャリティー事業（ワークショップ）が8月26日(日)、DCMダイキ(株)で開催されました。

市内の木材業者や建設会社が被災し、木材などの材料も浸水しました。汚れてしまった材木は、安く売却されるか、廃棄されます。その廃材を活用しようと、「愛媛グロークル・フロンティア・プログラム」の企業支援で創業した株STILL LIFEが主体となつて、この事業が実施されました。



ワークショップ開催





被災者の想いを込めて製作しました



廃材を活用した木製のテーブル

市内外から参加したみなさんは、伊予木材(株)、伊大建設(株)などから廃棄する予定の木材を調達。武蔵野美術大学の学生で松山市出身の團上祐志さんと、愛知県出身の古館壮真さんの指導を受け、5人一組の3班編成で家具を作成しました。

できあがった家具は、インターネット上で販売され、収益の一部は義援金に充てられます。お問い合わせは、後日公開されるウェブサイトをご確認ください。



真剣な表情で作業を行う参加者



県内外から保健活動の支援

7月豪雨災害以来、大洲市保健センターは、八幡浜保健所の支援のもと、被災したみなさんの健康調査や健康相談などを実施してきました。

8月末現在、県内外の約30組織、延べ約1200人の保健・医療関係チームから支援を受け、被災者の健康被害調査・健康相談などを実施しています。

県内市町・愛媛県・岩手県・神奈川県・宮崎市・長野県の保健師などによるチームをはじめ、県看護協会の災害支援看護師チーム、日本栄養士会の栄養士チームのみなさんには、避難者などへの細やかな健康支援を行っていただきました。



保健活動ミーティング



避難所での健康相談



肱川保健センターの復旧事務作業



△避難者巡回訪問

被災後の生活の中で、身体と心の健康不安がある人は、各保健センターまでお気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

保健センター	☎ 23	0310
長浜保健センター	☎ 52	3055
肱川保健センター	☎ 34	2340
河辺保健センター	☎ 39	2111

被災した家屋の公費による解体について

7月豪雨により被災した家屋などによる二次被害の防止と、被災者の生活再建の負担軽減を図るため、対象となる被災建物などの解体および撤去を、市が公費で行います。

【対象となる建物】

り災証明で「全壊」「大規模半壊」「半壊」と判定された家屋で、全てを解体・撤去する建物

※中小企業の事務所なども対象となります。

※発災時に空屋となっていた建物は対象となりません。ただし、被災により倒壊の恐れがある場合などは、対象となることがありますのでご相談ください。

【制度の内容】

対象となる家屋を、所有者の申請により、市が解体業者と契約し、解体・撤去を行います。

※既に自費で解体した人または解体の契約をしている人も、制度の対象となる場合がありますのでご相談ください。

【相談・申請書の配布】

申請に必要な書類については、相談窓口にてご説明しますので、窓口へお越しください。

【相談窓口】

▽災害廃棄物対策プロジェクト（本庁3階）

▽肱川支所

【申請受付期間】 8月27日(月)～10月31日(水)

【申請受付予約】

申請の受け付けは、混雑を避けるため予約制にしています。事前に電話で、予約をお願いします。



【問い合わせ先】

災害廃棄物対策プロジェクト ☎57-9995

肱川支所 ☎34-2311